

# 令和4年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における北中道小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和4年4月から令和4年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

## 1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

## 2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学校部第5学年の原則として全児童
- ・北中道小学校では、5年生 35名

## 3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）  
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

## イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）を実施する。

# 令和4年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

北中道小	学校	児童数	35
------	----	-----	----

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	13.30	17.25	53.44	32.15	36.84	10.85	124.45	16.70	46.61
大阪市	16.11	18.44	33.14	38.26	42.95	9.59	148.22	20.07	50.83
全国	16.21	18.86	33.97	40.36	45.92	9.53	150.83	20.31	52.28
女子	13.69	17.77	55.38	31.92	35.85	10.65	117.92	13.15	51.54
大阪市	16.01	17.55	38.00	36.50	34.13	9.76	140.76	12.77	52.65
全国	16.10	17.97	38.18	38.66	36.97	9.70	144.55	13.17	54.31

### 結果の概要

男子・女子ともに、長座体前屈において大阪市平均・全国平均を上回っている。また、女子は、上体起こしと20mシャトルラン、ソフトボール投げにおいて大阪市平均を上回っている。一方で、体力合計点については、男子は4.2ポイント、女子は1.1ポイント大阪市平均を下回っている。特に、50m走・立ち幅とびは男女とも大きく大阪市平均を下回っており、課題となっている。

質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目では、肯定的な回答が男子で大阪市平均を2ポイント下回り、女子は大阪市平均と同程度となり、昨年度より改善された。

1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、大阪市平均と比較して男子は14.7ポイント、女子は7.5ポイント高く、運動時間の短さが課題となっている。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校は、運動場が狭く、校区内の公園には、十分に運動できる環境がなく、体力向上には課題が多い。学校では、運動場の使い方の工夫やジャンピングボードの設置など、できるだけ運動への関心を高め、機会を増やすことに努めている。体育の学習での運動量の確保をはじめ、「耐寒かけあし・なわとび」などを体力向上の取組と位置づけるとともに、シナブソロジーの取組を取り入れ、日常的に運動の楽しさを感じ、意欲をもって運動に取り組めるよう工夫を重ねてきた。そして、東成区の体力向上事業を活用し、体つくりの運動について外部講師を招聘して運動への興味・関心を高める取組も行ってきた。また、教員が進んで運動場に出て児童と遊ぶことで、楽しく体を動かす機会も多く取り入れてきた。

これらの取組を通して、学校においては進んで外で遊ぶ姿がみられるようになってきており、徐々に運動への関心が高まっている。さらに運動の楽しさを感じることのできる取組を行うとともに、運動への興味を高める運動用具を整備することを通して、より一層、運動への意欲を高め、体力向上に向けた取組を充実させていきたい。